

# 親潮

第322号  
令和5年度 第2号

OYASHIO

北水同窓会誌

2023

322

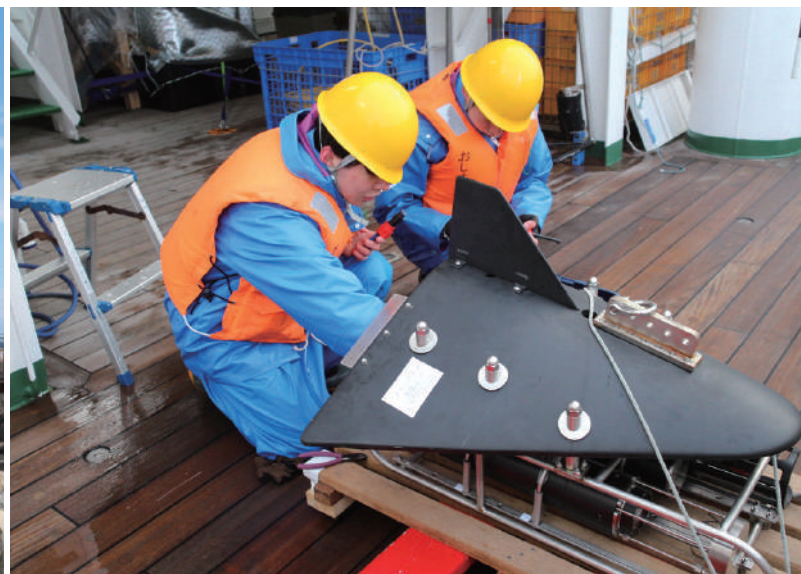
No.2

北水同窓会のEメールアドレスです

[hokusuialumni@gmail.com](mailto:hokusuialumni@gmail.com)

ホームページアドレスです

<http://hokusui.net>



## 特集 北水の今

### 特集 2023年度おしよろ丸北極航海の報告

- 次回総会案内
- 会費の案内
- 会員の受賞
- ホームカミングデー報告
- 定期総会報告
- 支部会・クラス会報告
- 追悼 ほか

# 親潮

第 322 号  
令和 5 年度 第 2 号  
OYASHIO

## CONTENTS

同窓会定期総会案内	3
会費の案内	4

### 特集 北水の今

特 集 <b>2023年度 おしよろ丸北極航海の報告</b>	6
<small>上野 洋路 (特別会員)</small>	

会員の受賞	10
-------	----

西村 一彦氏 (平2化) / 西川 哲也氏 (平3ソ)

北海道大学ホームカミングデー 2023 水産学部卒業生・在校生のつどい	12
--	----

定期総会報告	15
--------	----

支部会・クラス会報告	20
<small>東京支部総会報告 石川県支部令和5年度総会 昭和44年卒の漁業学科同期会 昭和48年度北海道大学水産類入学+α同窓会 70期卒業生のつどい</small>	

追悼	24
----	----

村上 敬氏 (特別会員) / 佐々木 徹氏 (昭40ギ)

学位取得者	26
-------	----

会員の異動	26
-------	----

会員死亡通知	26
--------	----

親潮投稿規定・編集後記	28
-------------	----

### 親潮322 表紙写真の説明

- ①おしよろ丸 (米国アラスカ州ノームにて)
- ②観測例: プランクトンの撮影 (CPICS)
- ③観測例: 水温塩分計測・海水の採取 (CTD)
- ④2023年9月定例記者会見



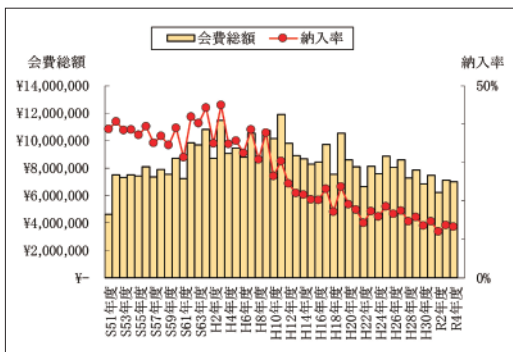




# 会費の案内

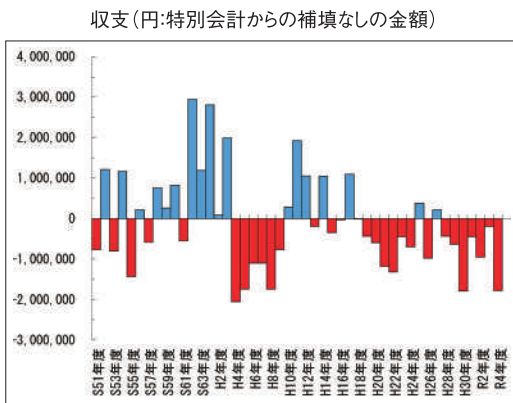
## 会費納入状況 (令和4年度まで)

- ◆会費推移：
  - ～昭和 (S) 51年度：¥2,000
  - S52～平成 (H) 9年度(1977～1997年)：¥3,000
  - H10～：¥4,000
- ◆納入率はS52の40.6%から、コロナ下のR2の12.1%まで低下 (R4：13.3%)



## 収支

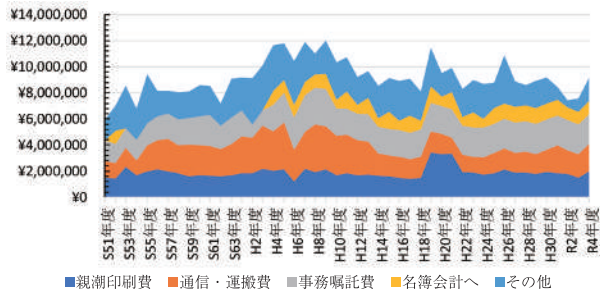
- ◆最近5年間で年平均104万円の赤字。このため、H25に200万円、H30、R2、R5に各300万円(計1,100万円)を特別会計(貯蓄;本同窓会75周年の寄付等の残金)から一般会計に補填



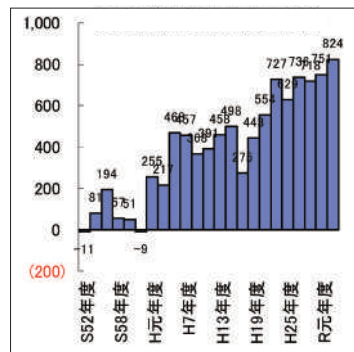
## 支出内訳

- ◆支出内訳の構成比の年変化は、ほとんどありません
- ◆名簿発行費は現在、3年に1回発行。R4は印刷費が1冊あたり1,067円(広告費を除くと824円)。他に送料が必要で年平均約100万円支出(3年で300万円)
- ◆人件費(事務委託費)は30年間ほとんど増やしていません。

支出内訳



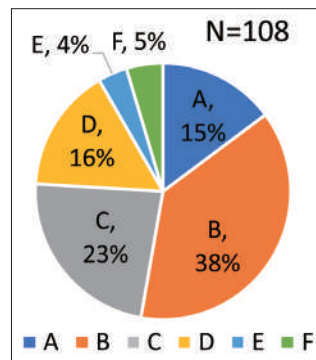
実質名簿単価(広告費で相殺)



## H31名簿アンケート結果

(親潮312号 P22)

人数(%)



- ◆81%が「全員配布は止めてよい」(B,C,D,E)、42%が「条件付き印刷体廃止」(B,E)

- A:15%** 今まで通りに印刷体を発行し、配布したほうが良い
- B:38%** インターネットで会員情報を検索出来れば、印刷体は廃止してよい
- C:23%** インターネットで会員情報を検索出来れば、印刷体は希望者のみへの配布でよい
- D:16%** 印刷体の希望者に配布するのみでよい(インターネット検索なし)
- E:4%** 印刷体を廃止し、インターネット会員検索も必要ない
- F:5%** その他(印刷体の希望者に実費で販売する、発行間隔を長くする、等)



# 会費納入率と 会費収入増に向けた方策(案)

- ◆【最重要課題】会費納入率上昇。そのために会費の実質値下げを提案します
- ◆経費削減のために、名簿発行を止めます(※次の項目をご覧ください)。ただし、必要な方に必要な情報を、随時提供します
- ◆サービス向上のために、SNS等を活用した情報提供と、各地でのイベント開催を各支部の皆様の協力を得て強化します
- ◆大学と会員の皆様の現状をお知らせ続けるために、機関紙「親潮」の発行は従来通り継続します。また希望者にはメーリングリストなどの送料のかからない方法で、「親潮」のHP掲載をお知らせします

## ①会費まとめ払い割引+65歳以降永年会費

- A 入学後50歳までの最大32年間分の会費を、10年分40,000円の定額払いを可能とします(実質¥1,250/年)
- B 50歳以上を対象として、65歳までの最大15年間分の会費を、8年分32,000円の定額払いを可能とします(実質¥2,133/年)
- C 65歳以降永年会費(10年分40,000円)を可能とします
- D 従来までの毎年4,000円払も継続

## ②名簿情報の提供方法

- ◆会費納入会員に限り書面での請求に応じて、PDFもしくはタックシールで提供します
- ◆個人向け：原則連絡先住所のみ、件数上限あり、テキストなしのPDF埋め込み画像で提供
- ◆同窓会各支部向け：原則連絡先住所のみ、タックシール現物もしくはPDFで提供
- ◆ネット会員検索：校友会エルム「ELM TREE」の活用  
<https://www.alumni-hokudai.jp/>

※卒業生名簿の大学全体で統合を目指し、2023年5月開始されました。ただし2023年11月1日現在、まだ会員検索サービスは始まっていません。

## ③新サービス

- ◆函館キャンパスや練習船の見学ツアーをご案内
- ◆同窓会幹事が出張の際に各支部主催懇談会へ参加し、学内最新情勢をご紹介します(支部活性化)
- ◆同窓生限定就活相談会
- ◆OGOB限定の業界懇親会
- ◆在校生向けに、就学援助、大学祭への協賛金提供を増やし、「卒業後に会費を払っても良い」という気持ちを醸成(同窓会の持続可能性の強化)
- ◆皆様の会費納入のきっかけになっているため、従来までの親潮の年2回発行と提供は継続

## 北水同窓会の運営に関するご意見の集約

北水同窓会の財務状況は悪化の一途をたどっており、最近5年間平均で毎年約104万円の赤字が発生しています。そのため現在、預金(残額1,332万円)切り崩しで維持しています。赤字を解消するために、これまでに様々な経費削減策(例えば名簿発行を2年に1回から3年に1回に変更、通信運搬費や親潮印刷費の削減のために業者変更、事務嘱託費の抑制、等)に取り組んでまいりましたが、昨今の物価高を考慮しますと、これ以上赤字会計を続けることはできません。早急に赤字をなくして、持続可能な組織運営に変化させる必要があります。

そこで今回、新たな方策案を会員の皆様にご提示するとともに、広くご意見を伺いたく、アンケートを実施いたします。大変お手数ですが、下記のGoogleフォームでご回答いただければ幸いです(googleアカウント=g-mailのメールアドレスとお名前の記入が必要です。QRコードは右側)。

[https://docs.google.com/forms/d/1\\_Foz3\\_10CashtVTsMWryq0a\\_7dfdg-mr8KaNmfdRWEU/](https://docs.google.com/forms/d/1_Foz3_10CashtVTsMWryq0a_7dfdg-mr8KaNmfdRWEU/)

※入力が必要な方は、メール本文に以下を記入して送信してください。

アンケート専用メールアドレス [hokusuidquest@fish.hokudai.ac.jp](mailto:hokusuidquest@fish.hokudai.ac.jp)

※郵送、FAXでの回答をご希望の方は、以下の回答用紙に記入してお送りください。

〒041-8611 函館市港町3-1-1 北海道大学水産学部内 北水同窓会 宛 FAX 0138-42-3681

回答期限はいずれも令和6年(2024年)3月31日(日)23:59です。よろしくお願いいたします。



## アンケート項目

お名前

卒業年・学科(任意)

1.冊子体による会員名簿は、令和7年度発行を最後として廃止する(必要な方への情報提供は継続する)。

賛成 ・ 反対

2.会費納入率を高めるために、まとめ払いによる割引会費制度を開始する(従来の支払い方式も残す)。

賛成 ・ 反対

3.その他、自由意見。

## 2023年度おしよろ丸北極航海の報告

上野 洋路(特別会員)



おしよろ丸(米国アラスカ州ノームにて)

北極域は世界平均の4倍もの速さで温暖化していることが知られています。また、海水面積も減少しており、9月の海水面積を見てみると2010年以降の海水面積は1980年代の海水面積のわずか6割程度となっています。おしよろ丸では、海水減少が海洋環境・海洋生態系に与える影響の総合的な理解を目指し、5年ぶりの55日にわたる長期航海により、北極海の観測を実施しました。本航海には、水産学部4年生、水産科学院生、他大学の大学院生が研究目的で乗船したほか、航海の一部を公開実習とすることにより、文系学部を含む他大学の学部生が北極域の海洋環境・生態系だけでなく、北極域における社会制度や社会問題について学びました。

海水の減少やそれに伴う海水温の上昇は、植物プランクトン等の低次生態系から海棲哺乳類等の高次生態系を変化させ、生物多様性に影響を与えています。北極の生態系や生物多様性を保全するためには、調査やモニタリングにより科学的情報を収集し、その理解を深めた上で対策を講じることが重要と考えられます。北極の環境変化とその生態系への影響の理解に関し、お

しよろ丸は数多く貢献してきました。例えば、1990～2013年におしよろ丸で採集した魚類のデータ解析からは、スケトウダラ等の底生魚類の群集構造が海水後退時期の影響を強く受けることが示されています。最近では、ベーリング海北部における海水融解の時期が例年通りであった2017年と海水融解が記録的に早かった2018年に、ベーリング海北部からチュクチ海南部海域の観測を実施しました。その結果、海水が早く融解すると魚類の餌として有用な大型の動物プランクトンが減少し、魚類の餌環境が悪化することが明らかになりました。また、海鳥の目視調査により、海水融解が記録的に早かった2018年には、海鳥は餌生物を探すのが困難であったことが示されました。

2023年北極航海では、ベーリング海北部から北極海の縁辺海であるチュクチ海を対象海域として、海洋の熱・物質循環の変動、一次生産(植物プランクトン)から高次生物(海鳥・海棲哺乳類等)までの海洋生態系を明らかにするために、海洋観測、サンプル採集、目視観測等を行いました。航路や航海日程に関しては図をご覧ください。2023年のベーリング海北部～チュクチ海

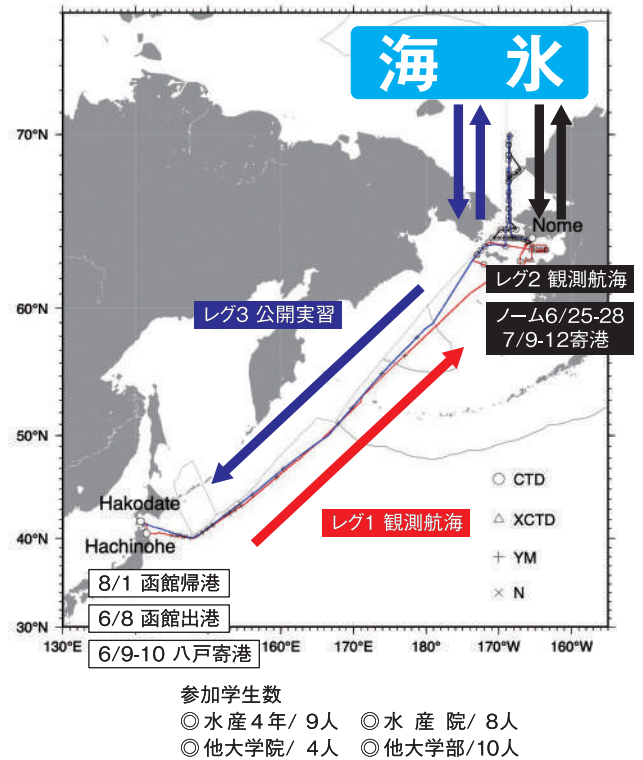


は、最近の北極航海の中で最も氷が多く、海域によっては、到着直前まで観測予定海域に海水がありました。実際に航走・観測ができるか緊張感がありましたが、タイミング良く氷が北に後退し無事に観測を実施することができました。実際に観測すると、ベーリング海北部の水温は2018年に比べて低く、以前に多くの魚類が採集された観測点で、今回はほとんど魚が獲れないなどの違いがありました。

本航海では、北緯70度以北に海水が分布しており、北緯69度58分が最北到達点となりました。安全上の理由から、海水域のすぐそばまで行くことはできませんでしたが、双眼鏡などで海水の様子を観察することができました。アイスアルジー（藻）の影響か、海水は真っ白ではなく茶色がかっていたことに学生達は驚いていました。また、海水近くには霧が発生していたため、海水はなかなか見ることができず、霧が晴れた際には歓声が上がりました。海水近くでは、通常の海洋観測の他、流れ水採集を行いました。採集に適した大きさの流れ氷が見つかったと、学生達はカメラやスマートフォンを手に乗組員が手早くすくい上げる作業を見つめていました。

今回の観測では、様々な新しい観測を実施しました。例えば、CPICSという海中で自動撮影する機器や、PTZカメラという海中を連続撮影するカメラを用いて、動物プランクトンの直接撮影を行いました。長年継続し

航海日程

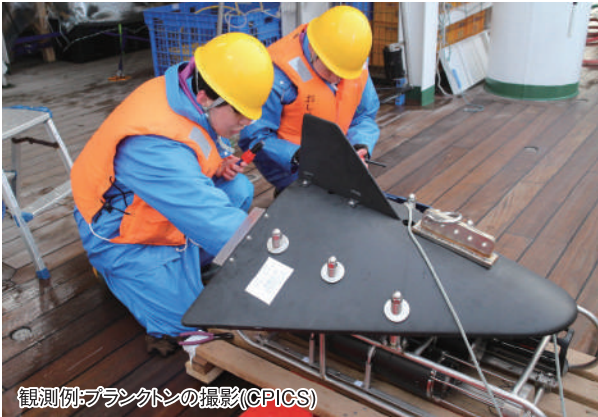


て実施しているNORPACネットによるプランクトン採集もちろん実施しています。現在、社会問題になっているマイクロプラスチックの採集も行いました。環境DNA観測は2018年に引き続き2回目の実施となりました。その間に観測手法を洗練させており、採取した海水からDNAを抽出、分析することで、タラ類などの分布情報



観測例:水温塩分計測・海水の採取(CTD)





観測例:プランクトンの撮影(CPICS)

を得ることが期待できます。今回の観測によるサンプル、データの分析・解析は現在実施中で、論文等の成果が出るのにはもう少し時間がかかりますが、ぜひ楽しみにして下さい。

北極航海における観測は、水産学部の4年生、大学院生、教員、さらに他大学・研究機関の教員、研究者、大学院生で共同して実施しました。夜には、教員、研究者、学生が研究紹介を行い、洋上のキャンパスとして海や北極について総合的に学び、議論する場となりました。また、今年は初めての試みとして公募により日本全

国の学部学生10名がレグ3(米国アラスカ州ノーム→函館)に乗船する公開実習を実施しました。文系学部や美術系学部の学生を含む10名の実習生は、自然科学系の観測や分析を体験するだけでなく、北極域の政治や文化を専門とする教員(北大北極域研究センター大西准教授)・大学院生(アラスカ大学フェアバンクス校Parlatoさん)による講義やグループワークを通じて、北極域の歴史や文化、社会問題について学びました。これらの講義等は水産の学生、教員も一緒に受け、筆者も北極に関する理解を深めることができました。

本航海には、公開実習の社会人講師として、海遊館の飼育員の方が乗船し、講義や実習を担当しました。学生達は水族館や海の生物の飼育について興味深く学んでいました。海遊館では北極航海で採集した生物の展示が始まっています。ぜひ、足を運んでみて下さい。また、公開実習の社会人講師として、朝日新聞の中山由美記者も乗船しました。中山記者は昭和基地で2回越冬した経験のある「南極・北極専門記者」で、講義や実習を担当して頂いただけでなく、北極航海に関して多くの記事を掲載していただきました。



観測例:底魚・ベントス採集(カイトロール)



観測例：海棲哺乳類・海鳥目視調査

筆者らは、航海終了後の9月に定例記者会見を実施し、北極航海で学生達が何をどのように学んだのかを紹介しました。記者会見には教員だけでなく、水産科学院生、公開実習に参加した京都大学教育学部の学生が参加しました。公開実習という新しい試みを行うことで情報発信の場が増え、おもしろ丸のここと、水産学部のことを多くの人に知ってもらえる機会を数多く得ることができました。今後も新たな試みを続けてゆきたいと思

ます。

本航海は、5年ぶりの長期航海・外国航海であり、さらに新型コロナウイルスが5類になった直後の航海でしたが、事故や感染症の蔓延などもなく、無事に55日の航海を終えることができました。コロナのリスクが残る中での航海を安全に実施して頂いたことに、また各種観測や実習の実施に力を尽くして頂いたことに、亀井船長を始め、乗組員の皆さんに心より感謝いたします。ありがとうございました。本航海でのかけがえのない経験が、乗船学生の卒論、修論、博論だけでなく、今後の仕事や生活のさまざまな場面で活かされることを願っています。

レグ3(米国アラスカ州ノーム→函館)集合写真



2023年9月定例記者会見：左から上野洋路(筆者)・北村もあな(北大水産科学院M1)・永井光洋(京大教育学部3年:公開実習参加学生)・大西富士夫(北大北極域研究センター准教授)



# 会員の受賞



## 西村 一彦氏(平2化) 令和5年度日本食品衛生学会 学術貢献賞受賞

板橋 豊(昭50化)



西村一彦氏(平2化)は、「脂肪酸並びに食品に残留する化学物質分析法の改良と調査研究」に関する

優れた業績が評価され、令和5年10月12日タワーホール船堀(東京)で開催された日本食品衛生学会第119回学術講演会において令和5年度日本食品衛生学会学術貢献賞を受賞されました。

公益社団法人日本食品衛生学会は食品衛生に関する研究の連絡、提携及び促進をはかり、あわせて研究結果の普及を行うことにより学術・文化の発展に寄与することを目的とし昭和35年に設立された食品衛生分野で歴史のある中心的な学会です。学術貢献賞は平成14年から食品衛生学の分野で優れた業績をあげ、貢献をなした者に授与される賞であり、今までに30名が受賞されていますが、その中に本学部の卒業生が名を連ねることは大変喜ばしいことです。

西村氏は、平成2年水産化学科魚油化学講座を卒業後、同大学院に進学、修士課程修了後の平成4年に北海道立衛生研究所に奉職され、食品科学部、健康科学部、企画総務部を経て、平成31年から

は食品科学部にて部長の要職を務め、今日に至っております。同氏はこれまでに食品中の残留有害物質検査を通じて道民の安全・安心に貢献するために、同研究所において畜水産食品中の動物用医薬品、環境汚染物質、貝毒等に関する検査・調査研究、健康づくり業務等に従事してきました。その中で、高速液体クロマトグラフィー／タンデム質量分析法(LC-MS/MS)等を用いた新たな動物用医薬品検査法の開発・改良をはじめ様々な食品検査に関する研究に取り組み、アルコールがペニシリン系抗生物質検査に与える影響、人体に有害なベンゼンやトルエンを用いないメチル水銀分析法の確立など食品分析分野に役立つ成果を論文等で多数発表してきました。平成12年からは、バター異臭事件への対応から学生時代に取り組んだ脂肪酸の分析に関する研究に再び携わる中で、水産科学研究院に社会人大学院生として在籍されました。平成16年に、畜産物の異臭原因物質である短鎖脂肪酸を簡便に分析する方法の開発や質量分析計を活用した脂肪酸蛍光誘導体の挙動に関する研究を纏めた学位論文「脂肪酸蛍光誘導体の高速液体クロマトグラフィー／質量分析法に関する研究」に対し博士号(水産科学)が授与されています。その後もフェニルボロン酸カラムを用いたアミノグリコシド系抗生物質一斉分析法の開発、水産食品中の船底防汚物質イルガロール、ジウロンの含有実態調査、アトピー性様皮膚炎モデルマウスの皮脂組成に温泉水が与える影響、LC-MS/MSによる細胞膜リン脂質の異性体に関する研究等を継続して行うとともに後進の人材育成にも尽力してきました。これら長年の業績が評価され、平成26年に日本分析化学会北海道支部から北海道分析化学賞が授与され、また平成30年には地方衛生研究所全国協議会より会長表彰を受けていますが、今回、それに続く受賞となりました。西村一彦氏の益々のご活躍を祈念いたします。



CONGRATULATIONS ON WINNING

## 西川 哲也 氏(平3ソ) 令和5年度 日本水産学会進歩賞受賞

吉村 直孝(平3ソ)



西川哲也氏は、令和5年度の日本水産学会進歩賞を受賞されました。受賞業績題目は「養殖海苔色落ち原因珪藻の大量発生機構と植物プランクトン群集の長期変動に関する研究」です。

西川氏は、平成3年に水産増殖学科(生理学・生態学講座)を卒業し、兵庫県に採用され、兵庫県立水産試験場で3年間、研究員として勤務しました。その後、平成6年から3年間、兵庫県庁の農林水産部水産課で行政職として、阪神淡路大震災やナホトカ号油流出事故の対応等を経験しました。平成9年から研究員として再び水産試験場(平成14年から所属名称が兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センターに変更)に戻り、平成21年から7年間は日本海側の但馬水産技術センター、平成28年に再び瀬戸内海側の水産技術センターに戻り、現在に至っています。

今回、受賞対象となった業績は、水産技術センターで平成9年から12年間にわたって携わった研究が評価されたものです。当時、兵庫県の瀬戸内海海域では、漁業生産の約半分を占める重要な漁業種類であった海苔養殖において、甚大な色落ち被害が頻発し、大きな問題となっていました。西川氏は、養殖海苔に色落ち被

害を引き起こす原因珪藻の生理生態学的特性を培養実験とフィールド調査の両面から検討し、その大量発生機構を解明すると共に、被害軽減対策に繋げるため、色落ちの発生を予察する手法を確立しました。加えて、長期にわたる海洋観測データを取りまとめ、海洋環境の変動に対する植物プランクトン群集や代表的な有害藻の動態応答を明らかにし、これからの沿岸・海洋環境の保全、再生を考える上での重要な知見を提供しました。なお、これら一連の研究成果は、平成22年に「論文博士」として北海道大学より博士(水産科学)の学位を授与されるまでに昇華させました。

本研究より、海の牧草と言われ、善玉プランクトンである珪藻も、場合によっては有害種になり得る事、色落ち問題は、海域の富栄養化→有害赤潮の発生という従来のシナリオとは逆の、瀬戸内海がきれいな海を取り戻しつつある過程で生じた、沿岸・海洋環境の新たな問題である事を提起しました。その成果は、平成27年に「きれいな瀬戸内海」の実現から「豊かな瀬戸内海」の実現を目指して改正された瀬戸内海環境保全特別措置法の科学的根拠として、今後の行政施策の方向性を決める上で大きな影響を与えました。

西川氏は、平成28年以降、沿岸・海洋環境の問題について、水産の立場から、京阪神において春の風物詩として重要なイカナゴやしらす(カタクチイワシ)、更にはそれを捕食する魚食性魚種までを包括的に捉えた研究、特に基礎生産からイカナゴやカタクチイワシの餌生物である動物プランクトンの生産構造を解明する研究に取り組んでいます。その研究の幅は、赤潮プランクトンから植物プランクトン全般、その捕食者である動物プランクトンや高次食物網にまで広がり、沿岸・海洋生態系の巨大なパラダイムを理解するスケールの大きな研究へと発展しています。また、日本水産学会や日本プランクトン学会では評議員や学会誌編集委員、関係省庁や特定非営利活動法人では有識者委員等を歴任、積極的に社会貢献活動にも取り組んでいます。西川氏の今後益々のご活躍を祈念致します。

## 各種行事開催報告

# 北海道大学ホームカミングデー2023 水産学部卒業生・在校生のつどい

幹事長 高津 哲也(昭63ギ)



写真1:マリカルプロジェクトと説明する都木研究院長。

令和5年9月30日(土)、午前の全学行事に引き続き、14:00から学術交流会館でホームカミングデーと本同窓会総会が札幌キャンパス学術交流会館で開催されました。総勢86名の同窓の皆様にご参加いただきました。

冒頭、都木靖彰水産科学院研究院長・水産学部長(昭59ゾ)による水産学部の近況が紹介されました(写真1)。本年は、キングサーモン(ますのすけ)とマコンプの完全養殖の実現と(マリカルプロジェクト)、これらを通じた地域で活躍する人材の養成を目指すCREEN人材育成事業が重点的に紹介されました。学部長からはまず、実はマコンプはまだ完全養殖できておらず、現在の促成養殖は天然2年目の母藻から遊走子を採集していること、促成1年物の母藻から採集できれば、現在激減している天然マコンプに頼らない安



写真2:講演する横田哲也氏

定供給が実現することが説明されました。キングサーモンは、函館近郊の定置網にごく稀に入網する親魚を使って完全養殖を目指し、寿しや刺身に引き合いの多い、脂の乗った最高級サーモンの生産を目指していることが紹介されました。また、北大フロンティア基金への寄附のお願いが述べられました。

次に、卒業生の横田哲也氏(平10ギ、日本海洋事業株式会社 取締役運航事業部長)に「海洋調査の現場





写真3:横山会長に花束贈呈。  
左は花束を贈呈した福田 寛特任教授(平15博増)、右は都木研究院長。

と「北水魂」～深海から、みらいまで～」と題してご講演いただきました(写真2)。講演内容は、学生時代は応援団、水産学部と海技士免許状を取得する特設専攻科に進学して現在の仕事に出会い、卒業後航海士として調査船業務に従事、その後陸上で海務監督業務を経て、海洋研究開発機構や日本サバイバルトレーニングセンターへ出向、日本初の総合洋上訓練施設の設立に奔走したことをご紹介いただきました。特に有人潜水調査船「しんかい6500」を安全に運航する上での難しさなど、現場経験が豊富な方ならではの、大変勉強になる講演でした。

15:30からは「北水同窓会定期総会」が開催され、8月1日に北大栄誉賞を受賞された横山清氏(昭35エ、北水同窓会会長、株式会社アークス代表取締役社長、写真3)に花束と、北水同窓会札幌支部からの記念品の贈呈が行われました。会長にはこれまでの経歴と、生涯現役の経営者を貫く強い意志を披瀝していただきました。その後同窓会の活動状況の報告と、今後の運営について議論することができました。引き続き、

「北水同窓会札幌支部通常総会」も開催されました。

18:00からは会場をANAクラウンプラザホテル札幌に移し、横山清会長の北大栄誉賞の受賞祝賀会も兼ねた「懇親会」が札幌支部の主催で開催されました。OGでHBCアナウンサーの佐藤 彩氏(平19資)が司会を務め、110名を超える同窓の皆様が参加し、横山会長の乾杯で開宴し、大変な盛会となりました(写真4)。懇親会の最後には都ぞ弥生を斉唱し、散会となりました(写真5)。

なお懇親会を主催していただいた札幌支部の皆様と、個人での御寄付をいただいた横山会長、景品をご提供いただいた株式会社アークス様、株式会社きのとや様、吉原法律事務所様、丸水札幌中央水産株式会社様、北海道漁業協同組合連合会様、北海道信用漁業協同組合連合会様、北海道JF共済推進本部様ならびに共水連北海道事務所様、北水札幌海鮮工房株式会社様、日糧パン株式会社様に対して、同窓会を代表してお礼を申し上げさせていただきます。ありがとうございました。



写真5:横山氏による都ぞ弥生の前口上。



写真4:北水同窓会懇親会の様子。



# 北海道大学 校友会 エルム

北海道大学 関係者の皆様のご登録をお待ちしております

※平成28年6月1日以前に基礎同窓会に加入されている方は会費不要です。



北海道大学関係者みなさんが  
ご入会いただけます。

📄 会員登録は以下URLからフォームにアクセス



<http://www.alumni-hokudai.jp/>

会員登録

をクリック!



会員登録が簡単になりました!

「お名前」「メールアドレス」「電話番号」  
「入学 or 卒業 or 所属情報」のみでOK

郵送でのお申し込みをご希望の方は事務局までご連絡ください

## 北大との絆をつなぐ一枚



三井住友カード株式会社 北海道大学カード

三井住友専用ページから申込み

三井住友カードサイト

カードをつくる

カード一覧

北海道大学カード



<https://www.smbc-card.com/nyukai/affiliate/hokudai/index.jsp>

本学卒業生、教職員の方 限定

# 北海道大学カード

北海道大学カードが北大生を支援する仕組み

北海道大学カードへの入会による取次手数料及びカード利用額に  
じた提携手数料がカード発行元の北海道大学校友会エルムに還元さ  
れ、これを「北大生支援資金」として北海道大学に寄附し、「奨学金」、  
「留学支援金」、「課外活動への費用援助」等に役立ててもらおうこと  
としています。



北海道大学 校友会 エルム  
HOKKAIDO UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION ELM



北海道大学 校友会 エルム 事務局

〒060-0809 札幌市北区北9西6丁目 国立大学法人 北海道大学 百年記念会館内  
TEL: 011-706-2101 FAX: 011-706-2010  
<https://www.alumni-hokudai.jp> ✉ [kouyukai@general.hokudai.ac.jp](mailto:kouyukai@general.hokudai.ac.jp)

## 北水同窓会総会の報告

- 開催日時: 令和5年9月30日(土) 15時30分より
- 会場: 北海道大学学術交流会館(札幌キャンパス)

### 出席者

#### 〈本部参加者〉

横山 清 (昭35エ) 同窓会会長・札幌支部会長  
 都木 靖彰 (昭59ゾ) 同窓会名誉会長・研究院長  
 綿貫 豊 (特別会員) 副研究院長  
 細川 雅史 (平2食) 副研究院長・副幹事長  
 藤森 康澄 (特別会員) 評議員  
 向井 徹 (昭61ギ) 研究院長補佐  
 横田 哲也 (平10ギ) 講演会講師  
 高津 哲也 (昭63ギ) 幹事長  
 田中 啓之 (平元化) 庶務部  
 浦 和寛 (平3ゾ) 会計部  
 山口 篤 (平6ゾ) 庶務部  
 藤本 貴史 (平12生) 編集部  
 熊谷 祐也 (平17資) 組織部

#### 〈参加者〉

寺尾 俊郎 (昭32ゾ) 札幌支部  
 佐野 康一 (昭33エ) 札幌支部  
 泉 敏博 (昭33ギ) 札幌支部  
 熊木 匡典 (昭39ゾ) 札幌支部  
 中津 俊行 (昭39ゾ) 札幌支部  
 青山 禎夫 (昭39ゾ) 札幌支部  
 佐々木南夫 (昭39ゾ) 札幌支部  
 兼崎 英勝 (昭41セ) 愛知県支部長  
 布施 英憲 (昭41ゾ) 札幌支部  
 橋本 淳 (昭42ギ) 札幌支部  
 岸本 富男 (昭42ギ) 函館支部  
 眞田 篤弘 (昭43化) 札幌支部  
 山下 明則 (昭44エ) 札幌支部  
 高橋 英明 (昭44食) 札幌支部  
 伊藤 俊輔 (昭46ゾ) 札幌支部  
 松山 恵二 (昭46ゾ) 札幌支部  
 及川 利幸 (昭47ギ) 札幌支部  
 長沼 昭夫 (昭47ギ) 札幌支部役員  
 奈良岡修一 (昭47ギ) 青森支部  
 宮野與志郎 (昭47ギ) 札幌支部  
 根尾 友久 (昭47食) 札幌支部  
 青木山哲郎 (昭48ゾ) 札幌支部  
 吉原美智世 (昭48ゾ) 札幌支部役員  
 浜谷 一郎 (昭51化) 札幌支部  
 荒井 克俊 (昭51ゾ) 札幌支部  
 吉田 英雄 (昭51ゾ) 札幌支部  
 藤島 浩晃 (昭52ギ) 札幌支部  
 柳川 延之 (昭52ギ) 札幌支部役員

梶原 善之 (昭53ギ) 札幌支部  
 藤原 隆幸 (昭54ゾ) 札幌支部役員  
 沖 昇平 (昭55食) 札幌支部  
 川合 祐史 (昭55食) 函館支部  
 我妻 勝 (昭56ギ) 札幌支部  
 大橋 人司 (昭56ギ) 大阪支部長  
 竹山 寛 (昭56食) 札幌支部役員  
 池津 裕文 (昭56ゾ) 札幌支部  
 幡宮 輝雄 (昭57ギ) 札幌支部  
 石田 宗博 (昭57化) 札幌支部  
 中島 和彦 (昭57化) 札幌支部  
 佐藤 信明 (昭58化) 札幌支部  
 馬場 賢一 (昭59ゾ) 札幌支部役員  
 割方 大輔 (昭61ギ) 札幌支部役員  
 小島 茂樹 (昭61化) 愛知県支部  
 高橋 広樹 (昭62ギ) 札幌支部  
 安田 昌樹 (昭62ギ) 札幌支部  
 山口 重幸 (昭62ギ) 札幌支部  
 藤原真由美 (昭62食) 札幌支部  
 村岡 真奈 (昭62食) 札幌支部  
 伊東 正則 (昭62食) 札幌支部  
 佐藤 雅己 (昭62化) 札幌支部  
 中川 興 (昭62化) 東京支部  
 八田 智宏 (昭63食) 札幌支部役員  
 藤田 瑞代 (昭63食) 札幌支部  
 長沼 秀直 (昭63ゾ) 札幌支部役員  
 嵯峨山 真 (平2ゾ) 札幌支部  
 板谷 良久 (平3ギ) 苫小牧  
 川村 忠 (平3ギ) 札幌支部役員  
 釜谷 明 (平3食) 東京支部幹事長  
 澤田 和明 (平3食) 札幌支部  
 杉原 伸郎 (平3ゾ) 札幌  
 押場 昭人 (平4ギ) 小樽  
 瀧波 憲二 (平4ギ) 札幌支部役員  
 大高麻衣子 (平4食) 札幌支部  
 高橋 研司 (平5ギ) 札幌支部  
 松倉 利昭 (平5ギ) 札幌支部役員  
 若林 眞由 (平5食) 大阪支部副事務局長  
 近藤 将基 (平5ゾ) 札幌支部役員  
 石本 竜大 (平7ギ) 札幌支部  
 前野 良史 (平7化) 札幌支部  
 上林 智樹 (平8ギ) 札幌支部  
 西 恒法 (平8ギ) 札幌支部  
 芳村 毅 (平8化) 札幌支部

千代谷 京 (平9ギ) 札幌支部  
 石川 正敏 (平11ギ) 札幌支部  
 森 拓通 (平11海) 札幌支部  
 谷口 博史 (平11海) 札幌支部  
 今村 伸之 (平11海) 札幌支部  
 吉江 洋郎 (平11資) 札幌支部役員  
 辻 宏幸 (平13生) 札幌支部  
 林 要 (平14シ) 神奈川県支部  
 福田 覚 (平15博増) 函館支部  
 大館 弘延 (平16海) 札幌支部  
 三宅 真人 (平16生) 札幌支部  
 鈴木 潤一 (平17生) 札幌支部  
 佐藤 彩 (平19資) 札幌支部  
 水上奈津子 (平20資) 札幌支部  
 全先 清博 (平20生) 札幌支部  
 中川 恵介 (平21海) 札幌支部  
 浮穴 純貴 (平22資) 札幌支部  
 石田 智啓 (平23ゾ) 札幌支部  
 斉藤亜久里 (平25資) 札幌支部  
 青木 貴生 (平26ゾ) 札幌支部  
 神原 宏和 (平26ゾ) 札幌支部  
 川合 広晃 (平28資) 札幌支部  
 鈴木花歩子 (平29増生) 札幌支部  
 柿崎真里奈 (平30資化) 札幌支部  
 櫻井 友輔 (平31資化) 札幌支部  
 笠井 亮秀 (特別会員) 函館支部

#### 〈総会のみ参加〉

魚住 昭文 (昭52ギ) 石川県  
 木村 暢夫 (昭55ギ) 函館  
 佐々木雅人 (昭56化) 大阪府  
 佐藤 信光 (昭57化) 大阪府  
 栗山 未来 (昭63ギ) 室蘭

#### 〈講演会オンライン参加〉

小原 隆夫 (昭49ゾ) 千葉県  
 岩崎 順 (昭50ゾ) 茨城県  
 小倉 孝宏 (昭62ゾ) 東京  
 亀山 喜明 (昭63食) 小樽  
 山田 正克 (平4ギ) 神奈川県  
 松本 明丈 (平10ギ) 東京  
 木和田広司 (平12ギ) 札幌



## 第101回 北水同窓会定期総会報告

令和4年度北水同窓会第101回定期総会は、令和5年9月30日15時30分から、北海道大学学術交流会館(札幌キャンパス)小講堂にて開催されました。議事進行に先立って、横山 清 北水同窓会会長が北海道大学栄誉賞を受賞されたことを祝い、北水同窓会本部より花束が、また、北水同窓会札幌支部より記念品が贈呈され、都木学部長より祝辞が述べられました。横山会長にご挨拶を頂いた後、議長に荒井克俊氏(昭51ゾ)が選出され、議事進行となりました。高津幹事長、各部(庶務部、編集部、組織部、会計部)幹事による令和4年度事業会計(監査)報告の後、令和5年度役員改選案、事業計画および予算案、総会開催地(東京)が審議され、いずれも承認されました。その他の議案として、高津幹事長より、収支状況の改善に向けて名簿発行の停止や会費のまとめ払い制度新設の提案があり、令和5年10月からアンケートを実施するなど会員の意見集約を進め、次年度総会で議論を深めることとなりました。

夜には札幌支部のご尽力によりANAクラウンプラザホテル札幌で懇親会が開催され、多数のOGOBの皆様が参加した盛会となりました。

庶務部 田中 啓之(平元化)

### ■総会次第

#### 1. 開会の辞

幹事長 高津 哲也(昭63ギ)

#### 2. 会長よりご挨拶

北水同窓会会長 横山 清(昭35エ)

#### 3. 研究院長よりご挨拶

大学院水産科学研究院長 都木 靖彰(昭59ゾ)

#### 4. 議長選出

#### 5. 議案第1号

令和4年度事業経過報告および  
会計決算報告

##### (1) 一般経過報告

幹事長 高津 哲也(昭63ギ)

##### (2) 庶務部報告(資料1)

庶務部 山口 篤(平6ゾ)

##### (3) 編集部報告(資料2)

編集部 藤本 貴史(平12生)

##### (4) 組織部報告(資料3)

組織部 熊谷 祐也(平17資)

##### (5) 会計部報告(資料4)

会計部 浦 和寛(平3ゾ)

##### (6) 会計監査報告

監事 向井 徹(昭61ギ)

#### 6. 議案第2号

令和5年度事業計画および予算案

##### (1) 令和5年度役員改選案(資料5)

庶務部 山口 篤(平6ゾ)

##### (2) 令和5年度事業計画案

幹事長 高津 哲也(昭63ギ)

##### (3) 第102回(令和5年度)定期総会開催地(東京)について

幹事長 高津 哲也(昭63ギ)

#### (4) 令和5年度予算案

##### 1. 会計部予算案(資料6)

会計部 浦 和寛(平3ゾ)

##### 2. 編集部予算案(資料7)

編集部 藤本 貴史(平12生)

##### 3. 組織部予算案(資料8)

組織部 熊谷 祐也(平17資)

#### 6. その他

#### 7. 閉会の辞

幹事長 高津 哲也(昭63ギ)

### ■令和4年度 庶務部報告(資料1)

#### 1) 新入会員数

海洋生物科学科	54名
海洋資源科学科	50名
増殖生命科学科	47名
資源機能化学科	50名
大学院(他大学、他学部出身者)	
修士	8名
博士	5名
合計	214名

#### 2) 本年度物故者(令和4年度親潮掲載分)

正・準会員	85名
名誉、特別会員	1名
合計	86名

#### 3) 会員現在数(3月9日現在)

正・準会員総数	16,629名
物故正・準会員数	3,802名
正・準会員現在数	12,827名
(内準会員数)	(14名)
特別会員数	74名
会員数合計	12,901名

#### 4) 新入会員を含めた会員現在数(3月9日現在)

合計 13,115名

## 令和4年度 編集部報告 (親潮発行) (資料2)

	号数	発行年月日	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
予算	319号	令和4年8月末	本誌 32頁 (内カラー7頁)	8,000	1,000,000	※1
	320号	令和5年2月末	本誌 32頁 (内カラー7頁)	8,000	1,000,000	※1
	合計		64	16,000	2,000,000	
決算	319号	令和4年8月22日	本誌 28頁 (内カラー14頁)	8,000	1,020,800	※1
	320号	令和5年3月8日	本誌カラー 32頁 (内カラー15頁)	8,000	976,800	※1
	合計		60	16,000	1,997,600	

※1 印刷会社: ㈱三和印刷 印刷費には別刷り振替用紙代、消費税を含む

## 令和4年度 組織部報告 (名簿会計) (資料3)

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金	2,003,224	2,003,224	名簿積立金
	一般会計より繰入	1,000,000	1,000,000	
	名簿広告料	1,500,000	825,000	
	受取利子		14	
合計	4,503,224	3,828,238		
支出	名簿印刷費	3,700,000	3,626,040	
	次年度繰越金	803,224	202,198	
	合計	4,503,224	3,828,238	

(繰越金の内訳 ゆうちょ銀行 202,198円)

## 令和4年度 会計部報告 (資料4)

### 1) 一般会計決算報告

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金	3,345,766	3,345,766	1741名 予算1800名
	会費	7,200,000	6,980,000	
	親潮広告料	160,000	320,000	
	雑収入	100,000	27,711	
	合計	10,805,766	10,673,477	
支出	親潮印刷費	2,000,000	1,997,600	(資料2) 親潮発送費2回分含む 札幌開催
	通信・運搬費	2,000,000	2,083,601	
	総会旅費	300,000	300,000	
	組織強化費	700,000	699,700	
	ホームカミングデー経費	150,000	106,800	
	備品	30,000	26,222	
	消耗品費	130,000	122,274	
	会議費	30,000	0	
	替手数料	280,000	262,435	
	事務嘱託費	2,320,000	2,294,747	
	備入費	30,000	18,000	
	日P維持費	80,000	75,350	
	雑費	20,000	7,334	
	OA機器整備費	50,000	50,000	
	名簿会計へ	1,000,000	1,000,000	
	予備費	1,685,766	70,000	
次年度繰越金		1,559,414		
合計	10,805,766	10,673,477	積立 (資料3) 未収広告料	

収支差引額(令和5年度に繰越) 1,559,414円  
(繰越金の内訳: 銀行預金 1,448,110円、現金 111,304円)

### 2) OA機器整備費(積立)決算報告

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金	190,407	190,407	摘要
	一般会計より積立	50,000	50,000	
合計		240,407	240,407	
支出	次年度繰越金	240,407	240,407	
	合計	240,407	240,407	

(繰越金の内訳 ゆうちょ銀行 240,407円)

### 3) 特別会計決算報告

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金	13,319,484	13,319,484	
	定期預金(マリンバンク)利息		83	
合計		13,319,484	13,319,567	
支出	次年度繰越金	13,319,484	13,319,567	
	合計	13,319,484	13,319,567	

### ○特別会計資産内容

項目	資産額	摘要
郵便定期貯金 2口	8,380,000	
銀行定期預金(マリンバンク) 1口	4,939,567	
合計	13,319,567	

## 会計監査報告

北水同窓会の令和4年度における会計監査を実施した結果を下記のとおり報告致します。

記

1. 監査対象期間 自 令和4年3月11日  
至 令和5年3月9日
2. 出納簿は、関係書類と対査の結果適正である。
3. 現金及び預貯金は、出納簿に照合し適正である。

以上

令和5年3月10日

監事

河原武則



監事

向井 徹





令和5年度 役員改選案 (資料5) [○は新任]

**会長**  
 横山 清 (昭35エ)  
**名誉会長**  
 都木 靖 彰 (昭59ゾ)  
**副会長**  
 鈴木 賢 一 (昭36セ)  
 吉野 生 壮 (ノ37ゾ)  
 樋口 達 夫 (ノ50食)  
**代表理事**  
 ○関 秀 司 (昭57化)  
**学内理事**  
 工藤 勲 (昭57化)  
 岸村 栄 毅 (ノ60化)  
 向井 徹 (ノ61ギ)  
 亀井 佳 彦 (ノ61ギ)  
 水田 浩 之 (ノ61ゾ)  
 宗原 弘 幸 (ノ61修ギ)  
 高津 哲 也 (ノ63ギ)  
 安藤 靖 浩 (ノ63化)  
 今村 央 (ノ63ゾ)  
 大坂 西 広 二 (平元ギ)  
 坂岡 桂 一郎 (ノ元ギ)  
 高木 力 (ノ元ギ)  
 山村 織 生 (ノ元ギ)  
 田中 啓 之 (ノ元化)  
 丸山 英 男 (ノ元化)  
 澤山 智 雄 (ノ元食)  
 細川 雅 司 (ノ2食)  
 山崎 浩 孝 (ノ2食)  
 東藤 孝 (ノ2ゾ)  
 小林 直 人 (ノ3ギ)  
 清水 敬 (ノ3ギ)  
 宮下 和 士 (ノ3ギ)  
 浦和 寛 (ノ3ゾ)  
 工藤 秀 明 (ノ3ゾ)  
 井尻 成 保 (ノ4ゾ)  
 和井 圭 理 (ノ4化)  
 ○山本 潤 (ノ5ギ)  
 ○井上 晶 (ノ5化)  
 ○平松 尚 志 (ノ5ゾ)  
**監事**  
 河原 武 則 (昭43エ)  
 ○向井 徹 (ノ61ギ)  
**学外理事**  
 山崎 文 雄 (昭33ゾ)  
 米田 義 昭 (ノ34セ)  
 小祝 良 介 (ノ36エ)  
 河村 章 人 (ノ37ゾ)  
 麦谷 泰 雄 (ノ37ゾ)  
 天下 清 (ノ39エ)  
 木村 昇 (ノ40セ)  
 猪上 徳 雄 (ノ41セ)  
 上平 幸 好 (ノ41ゾ)

岸本 富 男 (昭42ギ)  
 山本 勝 太郎 (ノ42ギ)  
 池田 勉 (ノ43ゾ)  
 仲谷 一 宏 (ノ43ゾ)  
 高橋 豊 美 (ノ44エ)  
 工藤 昭 彦 (ノ44ゾ)  
 志賀 直 信 (ノ44ゾ)  
 山内 皓 平 (ノ44ゾ)  
 三浦 汀 介 (ノ45ギ)  
 三佐川 稔 (ノ45ギ)  
 築田 満 (ノ45化)  
 後藤 晃 (ノ45ゾ)  
 原 彰 彦 (ノ46ゾ)  
 中林 重 雄 (ノ47ギ)  
 目黒 敏 美 (ノ47ギ)  
 近江 政 斗 (ノ47食)  
 土谷 俊 一 (ノ48ギ)  
 坂本 幸 造 (ノ48食)  
 桜井 泰 憲 (ノ48ゾ)  
 吉田 正 人 (ノ48ゾ)  
 吉野 威 (ノ49ギ)  
 飯田 浩 二 (ノ51ギ)  
 平石 智 徳 (ノ51ギ)  
 増田 宣 泰 (ノ51化)  
 矢部 野 孝 衛 (ノ51ゾ)  
 清水 晋 晋 (ノ53ギ)  
 蛇野 俊 二 (ノ53ギ)  
 上野 久 仁 夫 (ノ53化)  
 備前 悟 (ノ53化)  
 尾島 孝 男 (ノ54化)  
 ○木村 暢 夫 (ノ55食)  
 広崎 淳 一 (ノ55ギ)  
 正木 悦 郎 (ノ55ギ)  
 ○川合 祐 史 (ノ55ゾ)  
 宮岡 秀 昌 (ノ55ゾ)  
 安井 肇 (ノ55ゾ)  
 ○山羽 悦 郎 (ノ55ゾ)  
 西川 正 一 (ノ56ギ)  
 種田 貴 司 (ノ56食)  
 藤田 公 美 (ノ57ギ)  
 横山 信 一 (ノ58ギ)  
 佐藤 直 孝 (ノ58食)  
 今野 伸 (ノ62食)  
 宮崎 永 司 (平元ギ)  
**学外幹事**  
 柳町 琢 也 (平4化)  
 ○兵庫 隆 俊 (ノ5ギ)  
 ○鹿嶋 純 志 (ノ6ギ)  
 鳥海 滋 (ノ12資)  
 ○岸元 祐 二 (ノ15海)  
 島田 平 (ノ23増生)  
 木間 大 河 (ノ25海資)

**地方理事**  
 (稚内) 風 無 成 一 (昭41ギ)  
 (留萌) 祐 川 正 幸 (ノ48ゾ)  
 (紋別) 遊 佐 慎 太郎 (ノ52エ)  
 (網走) 葛 西 恭 博 (ノ53ギ)  
 (根室) 野 別 貴 博 (平8ゾ)  
 (釧路) 穂 積 明 (昭47ギ)  
 (旭川) 斉 藤 隆 司 (ノ46化)  
 (十勝) 梶 敏 (ノ44ゾ)  
 (苫小牧) 木 村 実 (ノ48食)  
 (室蘭) 矢 島 清 孝 (ノ45食)  
 (札幌) 林 和 明 (ノ38ゾ)  
 (札幌) 眞 田 篤 弘 (ノ43化)  
 (札幌) 小野寺 勝 広 (ノ56ギ)  
 (小樽) ○亀山 喜 明 (ノ63食)  
 (余市) 宇 藤 均 (ノ45ゾ)  
 (青森) 佐 藤 立 治 (ノ36エ)  
 (八戸) 関 川 順 悦 (ノ55ギ)  
 (秋田) 柴 田 理 (ノ55ギ)  
 (村山) 山 田 彰 一 (ノ40ゾ)  
 (庄内) 佐 藤 洋 (ノ54ギ)  
 (盛岡) 藤 本 勝 彦 (ノ61食)  
 (宮古) 山 本 敬 久 (ノ62ギ)  
 (釜石) 高 橋 禎 (ノ56ゾ)  
 (仙台) 稲 田 一 (平15海)  
 (石巻) 小 池 世 朗 (昭53ギ)  
 (気仙沼) 千 葉 敏 朗 (ノ46ゾ)  
 (福島) 江 部 健 一 (ノ53ギ)  
 (茨城) 渡 辺 夫 (ノ47ゾ)  
 (栃木) 澤 田 守 伸 (ノ54ゾ)  
 (埼玉) 未 定 健 治 (昭56食)  
 (館山) 安 田 唯 雄 (平24資化)  
 (銚子) 寺 沢 喜 雄 (昭56ゾ)  
 (千葉) 佐 藤 定 樹 (昭57化)  
 (東京) 未 庭 正 修 (ノ50ゾ)  
 (神奈川) 金 塚 咲 子 (平9ギ)  
 (新潟) 大 塚 地 武 郎 (昭45エ)  
 (長野) 菊 嶋 賢 一 (ノ42セ)  
 (静岡) 木 川 崎 裕 司 (ノ49ゾ)  
 (富山) 池 田 永 修 (ノ56ギ)  
 (石川) 富 兼 崎 英 勝 (ノ41セ)  
 (福井) 澤 田 宣 雄 (ノ57ゾ)  
 (愛知) 兼 崎 輝 (平2ゾ)  
 (京都・滋賀) 澤 田 輝 (平2ゾ)  
 (三重) 石 川 人 司 (昭56ギ)  
 (大阪) ○大 橋 原 慧 太郎 (平27海生)  
 (兵庫) ○梶 丸 山 清 重 (昭55ゾ)  
 (和歌山) 丸 山 本 栄 一 (ノ52ゾ)  
 (鳥取) 鈴 木 伸 一 (ノ50ギ)  
 (岡山) 羽 原 浩 史 (ノ55化)  
 (広島) 羽 原 玉 太 一 (平12生)  
 (島根) 児 玉 年 信 一 (昭37エ)  
 (関門) 萬 年 知 足 (ノ34ゾ)  
 (香川) 小 野 知 足 (ノ34ゾ)

(愛媛)	桑原彰三(昭53ゾ)	(長崎)	○征矢野清(昭61ゾ)	(沖縄)	渡辺利明(昭52ゾ)
(徳島)	宮本孝則(平元ギ)	(熊本)	安田広光(々58食)	(韓国)	李春雨(平3博漁)
(高知)	蒲原幸男(昭49ギ)	(大分)	武田晴美(々56ギ)	(中国)	田元勇(々22応博)
(福岡)	村上憲男(々51ギ)	(宮崎)	未定	(北米)	三浦明夫(昭53ゾ)
(佐賀)	高橋寛昌(平13海)	(鹿児島)	松岡達郎(昭52ギ)		

### 令和5年度 本部常任幹事 直通電話番号

市外局番(0138)

幹事	長	高津 哲也(昭63ギ)	40-8822	編集	部	安藤 靖浩(昭63化)	40-8803
副幹事	長	細川 雅史(平2食)	40-5530			○永田 淳(平26増生)	40-8810
庶務	部	田中 啓之(平元化)	40-8809	組織	部	○宮下 和士(平3ギ)	40-8856
		○高谷 直己(平25資化)	40-5530			西村 俊哉(平21生)	40-5535
会計	部	井上 晶(平5化)	40-8591	事務局		吉田 秀美	42-3681
		○辺 浩美(平29資化)	40-8802				

## 令和5年度 会計部予算案

(資料6)

### 1) 一般会計予算案

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金	1,559,414	1,700名見込み
	一般会計より繰入金	6,800,000	
	親潮広告料	3,000,000	
	雑収入	160,000	
	雑収入	100,000	
合計	11,619,414		
支出	親潮印刷費	2,000,000	(資料7) 親潮発送費(2回分)含む 東京開催 ※
	通信運搬費	2,000,000	
	総会旅費	600,000	
	組織強化費	700,000	
	ホームカミングデー経費	150,000	
	備用品	30,000	
	消耗品	130,000	
	会議費	30,000	
	振替手数料	270,000	
	事務嘱託費	2,320,000	
	備人	10,000	
	HP維持費	80,000	
	雑費	20,000	
	OA機器整備費	50,000	
	名簿会計へ費	1,000,000	
子備	2,229,414		
合計	11,619,414	積立 (資料8)	

※総会補助20万円、本部役員会補助7万円、卒業祝い品6万円を含む。

### 2) OA機器整備費(積立)予算案

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金	240,407	
	一般会計より積立	50,000	
合計	290,407		
支出	次年度繰越金	290,407	
	合計	290,407	

### 3) 特別会計予算案

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金	13,319,567	
	合計	13,319,567	
支出	一般会計へ繰入金	3,000,000	
	次年度繰越金	10,319,567	
合計	13,319,567		

### ○特別会計資産内容

項目	資産額	摘要
郵便定額貯金2口	5,380,000	
銀行定期預金(マリンバンク)1口	4,939,567	
合計	10,319,567	

## 令和5年度 編集部予算案

(親潮発行)(資料7)

号数	発行年月日(締切り)	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
321号	令和5年8月末(7月10日)	本誌 32頁 (内カラー7頁)	8,000	1,000,000	※1
322号	令和6年2月末(1月10日)	本誌 32頁 (内カラー7頁)	8,000	1,000,000	※1
合計		64	16,000	2,000,000	

※1 印刷会社:(有)三和印刷  
印刷費には別刷り振替用紙代、消費税を含む。

## 令和5年度 組織部予算案

(名簿会計)(資料8)

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金	202,198	名簿積立金
	一般会計より繰入金	1,000,000	
合計	1,202,198		
支出	次年度繰越金	1,202,198	
	合計	1,202,198	



## 東京支部総会報告

岩井 弘光(昭57ギ)



乾杯前シーン

### 64名の参加者一覧

新田 實(昭36セ)、西川 雄造(昭36セ)、山成 克二(昭37セ)、真嶋 俊平(昭41ギ)、小平 紘之(昭42エ)、重田 親司(昭44エ)、樋口 達夫(昭50食)、志村 謙介(昭50ヅ)、林 信二(昭52)、安田 弘義(昭52ギ)、白井 暁(昭54ヅ)、辻 信之(昭55ギ)、岩井 弘光(昭57ギ)、柳澤 洋司(昭57ギ)、神谷 慎一(昭57食)、滝澤 哲也(昭57化)、藤田 吉宏(昭57化)、山本 隆(昭57化)、中津 達也(昭57ヅ)、菊池 聰(昭58ギ)、横山 信一(昭58ギ)、楠山 仁志(昭59ギ)、黒田 哲弘(昭59食)、牛越 雅(昭59化)、奈良 雅夫(昭59ヅ)、伊藤 修一(昭60化)、小林 毅(昭61ギ)、西本 真一郎(昭61食)、坂野 泰弘(昭61食)、堀 三人(昭61食)、井手 俊隆(平元ギ)、河村 卓(平元ギ)、金澤 建支(平2食)、片山 晴康(平3ギ)、釜谷 明(平3食)、山田 正克(平4ギ)、竹川 直子(平6ギ)、中村 修(平8ギ)、半谷 いつみ(平8食)、石黒 裕康(平8化)、菅野 真人(平9ギ)、今村 浩二(平10食)、茶木 貴光(平10食)、小林 力(平10化)、後藤 大受(平10化)、森本 健吾(平12生)、小島 信夫(平13シ)、阿部 一世(平13資)、鈴木 賢一(平13資)、中林 祐輔(平16資)、藤原 智史(平16シ)、松倉 広平(平16資)、山岸 健太郎(平18資)、木谷 匡志(平18資)、澤口 譲(平18資)、島元 章宏(平19資)、富成 啓太(平22資化)、成田 暁(平23海)、網野 元貴(平25資化)、黒沼 宗弥(平26資化)、陳 天燕(チェン テンエン)(平26増生)、遠藤 祐助(令2増生)、酒井 智子(令3海生)、小島 愛莉(令3資化)



樋口支部長による冒頭あいさつと乾杯

2023年2月6日(月)19:00から北水同窓会東京支部総会及び新年会が東京都千代田区の学士会館にて開催されました。

会は冒頭に釜谷幹事長(平3食)による前年度活動と会計の報告に続いて、樋口支部長(昭50食)による3年ぶりの大規模なリアル開催にフェイスtoフェイスの重要性やチリの鮭鱒養殖産業を引き合いに今後は食品の輸出よりもノウハウの油種の時代であるとのいつものようにグローバルなご挨拶をいただき、乾杯の音頭で開演しました。年初月初の忙しい時期にもかかわらず、最年長の新田氏(昭36セ)から最年少は酒井氏(令3海生)、小島氏(令3資化)まで総勢64名が集い、和やかに飲み食べ旧交を温めました。楽しい時間はあっという間に過ぎるものです。最後は例年なら水

産放浪歌と都ぞ弥生で締めるところを落ち着いてきたとはいえコロナ禍でもあることから寮歌を一番のみ歌い、還暦を超えたわたくし岩井(昭57ギ)がエールを担当したのち、黒田副支部長(昭59食)による3本締めで閉会となりました。参加者には幹事等からご提供いただいた多数のお土産をお持ち帰りいただきました。なお、学士会館の会場となった部屋は3倍返して有名となった「半沢直樹」のドラマで香川照之が土下座をしたシーンで使用されたりと、頻繁にTVに登場する部屋とのテレビ情報もありました。次回は2024年5月25日(土)に今回と同じく学士会館で開催予定です。



## 北水同窓会石川県支部 令和5年度総会を10月7日(土)に開催

池田 裕司(昭49ゾ)



新型コロナの5類移行を受けて、北水同窓会石川県支部は令和5年10月7日(土)に4年ぶりに総会を開催致しました。参加者が6名といささか寂しい状況でしたが、久しぶりに旧交を温め、近況や昔話に花が咲きました。

なお、本総会にて新しい石川県支部長に魚住昭文(昭52ギ)を選出し、事務局も正式に福島稔(昭62ゾ:石川県水産課)から中川宙飛(平23海:石川県漁協)にバトンタッチされました。

前列左より池田 裕司(昭49ゾ)、魚住 昭文(昭52ギ)、中道 五郎(昭和39ゾ)  
二列目左より 中川 宙飛(平23海)、河崎 浩(昭55化)、福島 稔(昭62ゾ)

## 昭和44年卒の漁業学科同期会

伊藤 勉男(昭44ギ)

第5回昭和44年卒の漁業学科同期会を実施できた。

コロナが5類に移行したので、しばらく出来なかった同期会を、11月12日に東京の銀座ライオンのかこいやで実施した。

早目に案内をしていたが、体調を崩していたり、外せない用事や先約があったり、リンゴの収穫作業が忙しい時期だったりの報告があり、参加はちょっと少な目だった。

今までは北海道で実施していたが、今回は東京なので、他の学科の知人にも呼びかけたので、漁業学科



右列前から 古谷(食品)、大場、佐々木(増殖)、阿部  
中央 山口(遠漁) 左列前から 箕田、水野(遠漁)、伊藤、市川



## クラス会 報告

は5人だったが、4人が加わり、札幌3、関東3、知多1、鹿児島1、沖縄1の9人が集まってくれた。

大場くんの乾杯の音頭で始め、それぞれから経歴や近況を発表して頂いた。卒業以来、初めて会う同士も居て、懐かしく楽しい思い出の賑やかな懇親会だった。お互いに顔を思い出せたかな。

孤独になりがちなこの歳になると、同期会は楽しいものだ。あっという間の3時間だった。最後は恒例の「水産放浪歌」と「都ぞ弥生」を歌い、お開きとなった。参加した方からは

卒業以来の方ばかりで、本当に懐かしく楽しい時間でした。

函館での善き?学生時代が甦り英気を養うことが出来ました。

実に有意義な会でした。

楽しい時間をいただきありがとうございました。

会話の雰囲気は学生時代に戻っているフランクな空気感の中に居た気がしました。

などの返事をメールでいただき、満足して頂けたと思う。

## 昭和48年度北海道大学水産類入学+α同窓会 魚住 昭文(昭52ギ)



令和5年10月14日 東京:学生会館

写真左から

- 1列目 神保重孝(昭54ギ)、住田敏之(昭52ギ)、表芳弘(昭52ギ)、松井豊(昭52ギ)、宇佐美勝義(昭51ギ)、魚住昭文(昭52ギ)、加藤秀子(昭52食)、桑原幸範(昭52ギ)、田中弘太郎(昭52ギ)
- 2列目 佃朋紀(昭52ギ)、原猛也(昭52ギ)、大村富範(昭52食)、河野象威(昭52ギ)、村越孝(昭53ギ)、藤峯俊一(昭52ギ)、工藤真弘(昭52ジ)、栗原茂樹(昭52化)、菅原茂樹(昭53増)
- 3列目 梶原義之(昭53ギ)、鶴岡秀俊(昭52ギ)、宮崎嗣博(昭53ギ)、二渡衛(昭52化)、梅田勝博(昭52ジ)、今野勝俊(昭52ギ)、元木秀人(昭52増)、中間悟(昭53ギ)、若生昇(昭52ギ)
- 4列目 神部武重(昭52食)、阿久澤豊(昭53ギ)、乾伸一(昭52ギ)、長谷川昭雄(昭52ギ)、柳川延之(昭52ギ)、會田清三(昭52ギ)、田中伊織(昭52ギ)、日山克之(昭53ジ)、山内釧司(昭52ギ)、倉田隆喜(昭52化)、高橋正士(昭53ギ)、魚野明彦(昭52食)、山田康次(昭52ギ)、鈴木孝輝(昭52ギ)、土屋康弘(昭52ギ)、長谷田(増元)踏加子(昭53ジ)、石野健吾(昭52ジ)、井上麻記(昭55ギ) 以上45名

今回は「札幌開催」です。地元幹事の方にはご面倒をお掛けしますが宜しくお願いします。そして多くの方の出席を期待しております。

鶴岡秀俊さん制作の右記サイトをご覧ください。

<https://www.hokudai-suisan-48.website>

ユーザー名:suisan48

パスワード:suisan48

## 70期卒業生のつどい 鈴木 聡(昭55食)



ZOOM参加:中山史子、目野正彦、大西清隆、宮村慎介

母校が1876年に第一期生を迎えてから100年目にあたる1976年、我々は札幌農学校100期生として北大に入学した。水産学部としては70期生となる。今年、全員が65歳を過ぎ、サラリーマンなら多くは現役を引退した年。コロナ禍も表向きでは下火になった9月9日に函館に集った。同期では

何人かが母校の教員として残っていたが、全員定年となり、やっと迎えた彼らの卒業式の名目もあった。

何十年ぶりに会う人もいたが、今はSNSもあり、日頃から繋がりを持っている人たちも多く、情報共有は盛んだ。様変わりした函館駅前の居酒屋(いか太郎本店)に20名が集まり、Zoomでも繋いで4名が参加した。最初に、水産学部を定年退職した参加者3名への祝賀と同期全員の健康に乾杯したあと、すでに鬼籍に入った友人たちへの献杯をして会は始まった。

お互いの現状報告、老後計画から始まり、酔うにつれて思い出話へと進み、みな学生時代に戻っていった。てんこ盛りの話題はあつという間に溢れ出し、タイムマシンに乗り合わせた24名の時間は超早回しの走馬灯のように回り続けた。二次会は、昔柳小路にあった「杉の子」。場所は変わっているが、当時のままの看板を懐かしみ、タイムマシンは飛び続けた。惜しみつつ迎えたコンパ最後の儀式では、小林次郎兄(増殖)のリードによる水産放浪歌、永遠の幸、そして魂の歌都ぞ弥生で締め括った。昭和の北大生ならではの路上エールもあり、昭和55年の風景が再現された。その後、日にちが変わるまで五稜郭方面で飲み続けたメンバーもいた。

前回の同期会は卒業25周年の翌年に湯の川で85名が参加して行われた。その後、何十回となく数人ごとの集まりや教養クラスの会は全国各地で続いており、同期の結束の強さが窺える。要は、コンパと語ることが好きな輩が多い代なのだ。今回は、沖昇平兄(食品)がリーダーとなり、前回同様に早崎文子姉(食品)が心配りをしてくれ、すばらしく楽しい同期会になった。

参加者は写真にある通りなので、往時と変わった姿を探して欲しい。





# 追悼寄稿

## 村上 敬 先生を偲んで

大西 広二 (平元ギ)

村上敬先生が、昨年7月16日午後6時50分にご逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

御隠退された後も、卒論発表会などの折々には函館キャンパスにお越しになり、お元気そうな姿を拝見しておりましたのに、信じられない気持ちです。同じく引退された久万先生、田島先生、戸谷さん、松井さんらと、変わらずパークゴルフを楽しんでおられる事と思っておりました。

村上先生は、徳島県のご出身だとお聞きした覚えが有ります。東京教育大学(現筑波大学)の理学部・数学科で学士を取られ、東京大学理学研究科地球物理学で修士号を取られたと聞いて居ます。その後、秋葉先生らからのお誘いもあり、北海道大学水産学部、海洋学気象学講座に助手として赴任されました。

私が卒業した漁業学科の時代には「気象学演習」や「海洋学実験」などを担当されていたと思います。天気図のトレースや、海洋断面図の書き方、塩分検定のやり方などを授業として教えて頂きました。学科改変が有ったのちは、「流体力学実験」を三宅先生と私と一緒に担当し、レイノルズの層流・乱流実験、カルマン渦の実験、ロスビー波の実験、コリオリ力の実験、ストークスの流体抵抗の実験など、名だたる海洋学者たちの名実験を次々と簡単な実験

装置で再現し、その数学と理論に裏打ちされた鮮やかな解説には、私を含めて今も多くの卒業生たちの記憶に残って居る事と思います。

研究面では、大谷先生や三宅先生、磯田先生らと一緒に、噴火湾や津軽海峡などの北海道の沿岸域をフィールドにされ、臼尻実験所の水温時系列データなども解析されておられました。初代・2代目「うしお丸」を使った現場観測にもたびたび出ておりましたが、船酔いで食事を取られないで、いつもトマトを齧っておられた姿が印象的でした。それら研究業績の中でも、オホーツク海の融氷水の影響を受け、道東太平洋側から津軽海峡の入り口にま

で影響を及ぼす、極低温・極低塩分の「沿岸親潮」は村上先生がその名付け親でした。笑顔を絶やさない村上先生の暖かいキャラとは真反対の冷たい沿岸海流ですが、それが流れる事で、北海道太平洋岸に栄養塩をもたらし、胞子を運び、春のブルーム(植物プランクトン大増殖)をもたらす、北海道の海の恵みの根本を成すものです。

村上先生が北大水産学部・水産科学研究院に運ばれたものは、まさに「沿岸親潮」に匹敵するもので、学生を育てる大切な基盤でした。そして卒業生・修了生たちはその基盤の上に大きな成果を实らせる事ができたのだと思います。

ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



## 佐々木徹よ、 少し早いんじゃないのか

三谷 勇 (昭40き)



昭和39(1964)年11月10日午後1時、梨本勝昭助手が忍路丸で南洋航海に出るときのお見送り。手作りの講座旗で、旗の「漁」は上野(右から2番目)、「具」は田坂(左から2番目)、「物」は三谷(左端)、「理」は佐々木(右端)が描いた。布は講座の古びたカーテンで、端が破れている。

令和5年12月6日、「シラスの世界」がそろそろ脱稿しそうな時、突然、佐々木徹の訃報が飛び込んできた。あんなにも元気だった佐々木が、今年11月5日に84歳の若さで逝去したという。行くには少し早いんじゃないのか。

ここ数年は病院に行くことを嫌がり、食事の好き嫌いも出てきて、頑固な生き方をしたと愛妻の節子さんが話していたが、わがままを通して愛妻に甘えた姿もまた佐々木らしい。

彼は、高校を卒業して2年ばかり社会に出て働いてみたが、やはり大学に行こうと思いつき、それから猛勉強して入学してきたので、社会の気難しさもよく知っていて、同期の仲間によく話してくれた。

佐々木とは昭和36年に北大に入学して以来の親友で、いつもニコニコしていて、背を少し前に曲げて顔を突き出し、人の話の奥まで聞こうとする態度は天下一品だった。人付き合いはよく、誰とでも上手に話すけれども、一度自分の心に決めたことはそれこそ頑固に押し通すことが多かった。私には何かを話し合っている、その多くを妥協してくれて、私が後で後悔することがあったけれども、心の優し

い友人だった。

愛妻の節子さんの話によると、この2ヶ月前にも、私やもう一人の学友を長い間の親友だといっていたそうだが、当時の学内、いや、校内にあった北晨寮ではいつも4人がつるんでいた。現在では個人情報かどうかといわれているので、名前を仮にIとすると、Iは竹を割ったような性格の持ち主で、佐々木や私の学科の進路まで決めてしまった親友である。

大学2年目の秋には札幌の本学から函館に移る。その際に、自分が専攻する学科を選択しなければならない。増殖関係を専攻しようとする、Iはさすがに漁業学科だろうという。佐々木も私も性格を読まれていたのだろうか。他の学科ではやっていけないなどいわれ、それがそのまま受け入れたのだから、親友とは有り難いものだと思う。

Iの助言のもと、佐々木とは漁業学科漁具物理学講座に入った。講座には黒木敏郎教授、佐藤修助教授、梨本勝昭助手がいて、佐々木は梨本助手の指導を受け、私は黒木教授の指導を受けた。きつかった。

この他に上野と田坂がいたが、この仲間もユニークであった。佐々木はこの変な学生たちのまとめ役みたいで、いつも笑っていた。でも、卒論のための実験中には、1階の片隅の実験室で、佐々木と梨本助手が夜遅くまでかなり激しい議論をしていたことがあった。佐々木は芯の強い男だったことを思い出す。

佐々木のニコニコ顔は彼の人生訓だったようで、令和3年の年賀状にも「笑っていこう。すべてがうまくいきますよ。」と書いてきた。卒業後も時々会っていた今は亡き同期の丸田にも「三谷は(学生の頃)よく怒っていた」といわれたので、怒りっぽい私への最後の忠言だったのだろうか。

佐々木よ、半世紀以上も親友でいてくれたことを心から感謝するよ。あの世でもニコニコ顔でよろしくな。

□学位取得者【令和5年度6月取得】

陳 樹河	<i>Pseudomonas</i> sp. Go58 isolated from water-plant biofilm, genome analysis and preliminary study on its algicidal function (水草バイオフィルム由来 <i>Pseudomonas</i> sp. Go58のゲノム解析および殺藻活性に関する基盤的な研究)
------	--

□学位取得者【令和5年度9月取得】

ALFABETIAN HARJUNO CONDR HADITOMO	Understanding Global Aquaculture Microbiome Trends Toward Constructing Sustainable Local Smart Aquaculture (地域養殖の高度化に向けた世界の養殖マイクロバイオームへの理解)
伊木 亜子	ヨウ素低減コンブ加工食品の製造技術の開発
宮部 好克	低利用海藻ダルスおよびマツモの成分・加工特性の解明に関する研究
俞 隼文	Characterization of pioneer microbiomes associated with <i>Apostichopus japonicus</i> : Insights into host-microbe interactions and sustainable aquaculture (宿主と微生物の相互作用と持続可能な養殖に向けての洞察)

□会員異動

○令和5年10月1日付 採用

東藤 孝 大学院水産科学研究院准教授を同教授に採用

会員死亡通知

宮脇 末治 (昭19ギ) 令和5年 1月28日 ご家族様より	斉藤 俊夫 (昭37セ) 令和3年10月 2日 ご家族様より
根津 允雄 (昭19セ) 令和5年 8月 9日 ご家族様より	黒河 正幸 (昭38セ) 令和5年 7月13日 ご家族様より
齋藤 昭二 (昭23エ) 令和6年 1月 2日 米田国三郎(昭40エ)様より	森 紘夫 (昭39エ) 令和5年12月18日 大谷 研一(昭39ギ)様より
山田不二夫 (昭25エ) 令和5年 1月 2日 ご家族様より	佐々木 徹 (昭40ギ) 令和5年11月 5日 三谷 勇(昭40ギ)様より
鈴木 芳夫 (昭26ギ) 令和5年 5月18日 ご家族様より	藤谷 慈照 (昭40ギ) 平成27年10月21日 ご家族様より
蛭子 正昉 (昭26教ギ) 令和5年 5月24日 熊谷 正樹(昭54ギ)様より	高橋 正志 (昭41セ) 平成30年5月 1日 ご家族様より
中里 昭一 (昭26エ) 令和5年 8月 1日 ご家族様より	岸本 富男 (昭42ギ) 令和6年 1月20日 山本勝太郎(昭42ギ)様より
武藤清一郎 (昭26セ) 平成28年7月17日 ご家族様より	佐々木 毅 (昭42エ) 平成5年 4月 1日 藤井 洋治(昭42ギ)様より
吉田 弘司 (昭28セ) 令和5年10月 2日 ご家族様より	前田 年章 (昭45ギ) 令和5年 7月21日 佐藤 勝美(昭44エ)様より
田向 健二 (昭30ギ) 令和5年 8月10日 青森支部様より	高野 幹男 (昭45ゾ) 令和5年 6月29日 ご家族様より
牧野 用平 (昭30セ) 令和5年 7月10日 ご家族様より	山本 淳一 (昭46ギ) 令和5年 6月 1日 ご家族様より
庄司 滋夫 (昭31セ) 令和5年 4月15日 ご家族様より	佐藤 隆 (昭49化) 令和5年 4月 7日 ご家族様より
木島 登 (昭33エ) 令和5年 2月 9日 ご家族様より	挽野 恭造 (昭51ギ) 令和5年 1月 7日 ご家族様より
目片 徳治 (昭33ゾ) 令和5年 9月 1日 山崎 文雄(昭33ゾ)様より	野川 秀樹 (昭51ゾ) 令和5年10月21日 帰山 雅秀(昭48ゾ)様より
沼崎 純夫 (昭34セ) 令和5年 9月 1日 ご家族様より	長谷田茂男 (昭53ゾ) 令和5年 1月10日 ご家族様より
上ノ山 健 (昭35セ) 令和5年 5月 6日 ご家族様より	内村 祐之 (昭57ゾ) 平成29年11月15日 ご家族様より
齊藤 覺 (昭36ギ) 令和5年 4月27日 ご家族様より	田邊 浩志 (平2ゾ) 令和5年11月21日 津野建一郎(平2ギ)様より
大割 了 (昭37ギ) 令和5年10月15日 ご友人様より	





# 株式会社 釣 八

URL <http://www.tsuru8.co.jp/>

よく間違えられますが、「つるはち」って読みます。

社長の名前が「つるみ」だから。

世界中の海から、イカ、赤魚、サバ等なじみのある水産物を、

いま、求められるかたちにして、お届けできるように奮闘努力刻苦勉強

代表取締役 釣見 泰之(昭和59年 漁業学科卒)

【水産学部卒業社員】 土井 倫行(昭和60年卒) 倉部 徹(昭和60年卒) 水井 修(昭和58年卒)

本社

〒104-0042 東京都中央区入船3-8-7 ザ・ロワイヤルビル2F

TEL03-3297-8883 FAX03-3297-8885

八戸支店 〒031-0833 青森県八戸市大久保字野馬小屋2-3 ウィステリアB102 TEL 0178-38-8371

銚子支店 〒288-0041 千葉県銚子市中央町9-16 中央町ビル3F TEL 0479-25-8822

大阪支店 〒553-0001 大阪府大阪市福島区海老江2-2-5 SYDビル301 TEL 06-6131-8418

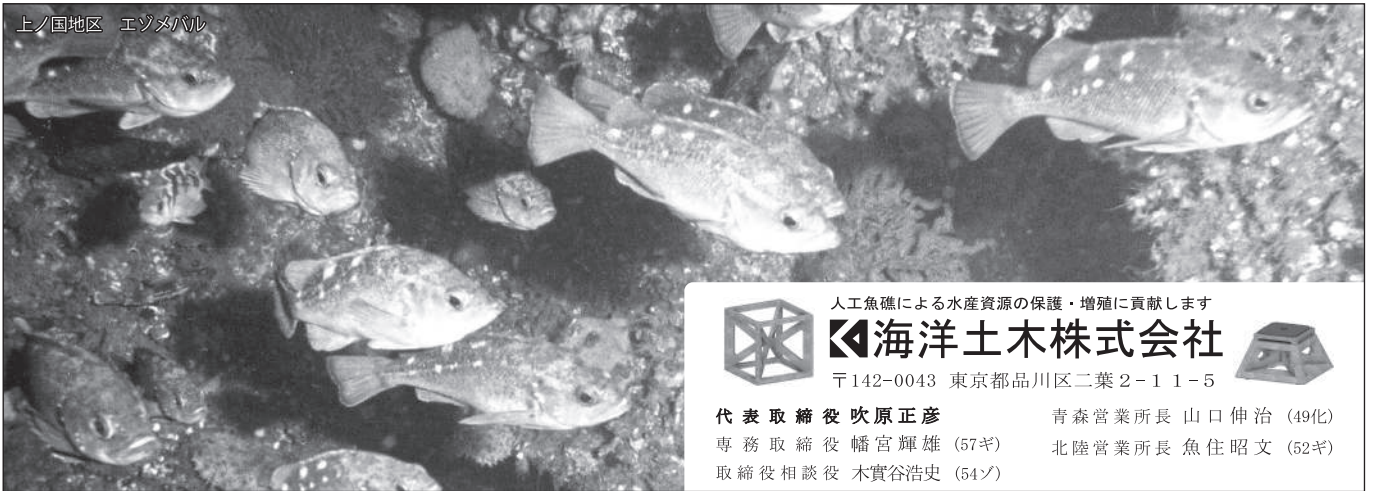
福岡支店 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前3-18-28 フクオカZビル 7F TEL 092-401-8828

関連会社

(株)釣十(豊洲/マグロ仲卸) (株)いかめし阿部商店 札幌蟹販株式会社

大連釣八(中国/水産物加工) フィッシングエイト(US/LA)

上ノ国地区 エゾメバル



人工魚礁による水産資源の保護・増殖に貢献します

## 海洋土木株式会社

〒142-0043 東京都品川区二葉2-1 1-5



代表取締役 吹原正彦

青森営業所長 山口伸治 (49化)

専務取締役 幡宮輝雄 (57ギ)

北陸営業所長 魚住昭文 (52ギ)

取締役相談役 木實谷浩史 (54ゾ)



TV CM 絶賛放映中!

「どさんこ松前漬」2023年2月発売



## 株式会社 竹田食品

代表取締役 竹田 寿広

営業所: 札幌・東京・大阪・福岡

本社工場: 北海道函館市浅野町3番10号

TEL: (0138) 43-1110(代)

HP: <https://takeda.hakodate.jp/>

相続 離婚 債務整理 交通事故 労働問題 会社顧問

相談料は全て無料です

# 吉原法律事務所

札幌弁護士会 弁護士 吉原美智世 (昭和48年増殖学科卒業)

お気軽にお問い合わせ下さい

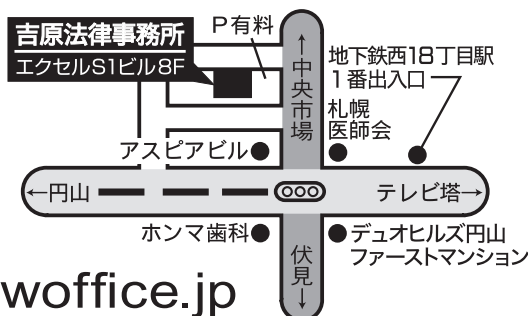
**TEL 622-7963 FAX 622-8414**

札幌市中央区大通西20丁目2-20  
(エクセルS1ビル8F)

**交通**

東西線西18丁目地下鉄1番出口

**E-mail** lawyer@yoshihara-lawoffice.jp



営業時間においてに成れない方はご相談下さい。

## 親 | 潮 | 投 | 稿 | 規 | 定

### 【寄稿、支部・会員便り、会員の受賞、ご案内など】

一つの投稿につきA4版・1ページ(2000字程度)までとする。この制限以上の長文あるいは連載を希望される場合は2号分までとする。写真を入れる場合、その分の文字数が減る。また写真はホームページに掲載することもできる。原稿は、同窓会宛に封書で郵送するか、同窓会のメール宛に送付することとする。

### 【同窓生の声】

各種活動や出版物の告知・紹介、本誌への感想など。個人的な連絡は対象とせず、1記事につき300字以内。同窓会あてのメール(hokusuialumni@gmail.com)にて受け付けます。写真は入れられません。

## 【編集後記】

今回の特集では、おしよ丸の北極海航海について、上野洋路先生にご執筆頂きました。

コロナ禍で制限されてきた活動が徐々に再開し、こうした国外での長期航海も実施されるようになってきました。ホームカミングデーにおいて懇親会も開催される等、様々な活動が再開され始めたことを心より嬉しく思います。

次号「親潮」令和6年度1号(通算323号)の原稿締め切りは2023年7月10日とさせていただきます。寄稿につきましては、郵送もしくは電子メール(hokusuialumni@gmail.com)にて受け付けております。その他、支部報告や同期会報告、著者の紹介など、多くの原稿をご投稿下さいますようお願い申し上げます。なお、親潮では同窓の方々の交流形態として「同窓生の声」の広場を設けております。また、本誌に対するご意見やご感想なども募集しております。詳しくは投稿規定をご参照ください。

また、支部総会や同期会の開催時の写真や開催案内を北水同窓会のホームページ(<http://Hokusui.net/>)にて掲載しておりますので、是非ご覧ください。

編集幹事/永田 淳(平26増生)

令和6年3月発行

北水同窓会 〒041-8611 函館市港町3-1-1  
TEL & FAX.0138-42-3681

E-mail:hokusuialumni@gmail.com